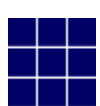


内藤電誠工業株式会社 デバイスカンパニー佐渡工場

環境活動報告書 2024



2024年 8月
内藤電誠工業株式会社
デバイスカンパニー佐渡工場



目次

ごあいさつ	・・・	3	環境マネジメントと環境会計・・・	8
環境活動	・・・	4	省エネルギー活動	・・・ 9
環境マネジメントシステム	・・・	5	化学物質・廃棄物の管理	・・・ 10
環境活動の実績	・・・	6	コンプライアンス	・・・ 11
事業活動と環境負荷	・・・	7	ボランティアと啓発・啓蒙	・・・ 12

■ 目的

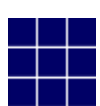
本書は、社員をはじめとするお客様、お取引先様、地域社会の皆様、行政機関等、当工場の事業活動にかかわりのある多くの利害関係者の方々に、当工場における環境に関する考え方とその取組みをご報告することにより、相互のコミュニケーションをはかります。

■ 対象範囲

本書の対象範囲は「内藤電誠グループ」4社の内、内藤電誠工業（株）デバイスカンパニー 佐渡工場です。

■ 対象期間

2023年 4月 1日～ 2024年 3月 31日の活動内容です。



ごあいさつ・エコファクトリーを目指します。

内藤電誠工業株式会社デバイスカンパニー 佐渡工場は、お客様の要求に応え、お客様が満足する品質の半導体製品の製造を、この自然豊かな佐渡島で、事業展開しています。

そして、これらの製品は、原材料の調達からその廃棄にいたるライフサイクルを通じて、各種法規制を順守するとともに、地球環境への影響に配慮した安全・安心な製品を提供しています。

さて、半導体製品の製造工程においては、多くのエネルギーを使用します。これらの生産活動における環境負荷を低減するため、当工場では、省エネ設備の導入、改善活動によるリスク低減等、積極的に取り組んでいます。また、当工場からの排出物による環境影響を監視・測定するために、法規制よりも厳しい自主基準を設定し、その維持管理をおこなっています。

当工場は、今後もお客様が満足する品質の確保、環境に優しいものづくりの工場を目指してまいります。

本報告書は、2023年度の環境管理活動をまとめたものです。
ぜひご一読いただき、皆様のご理解を賜ると共に、率直なご意見を頂ければ幸いです。

工場長 伊藤 英俊

【会社概要】

商号		内藤電誠工業株式会社	
本社所在地		神奈川県川崎市中原区下沼部1933番地	
代表者		代表取締役社長 佐藤 暁	
資本金		1億円	
佐渡工場	工場	羽茂	真野
	設立	1970年 7月	1964年 9月
	所在地	新潟県佐渡市羽茂本郷1939番地	新潟県佐渡市吉岡1688番地
主な事業		民生/工業/車載用LSIの製造	
社員数		89名（佐渡工場）	

【環境方針】

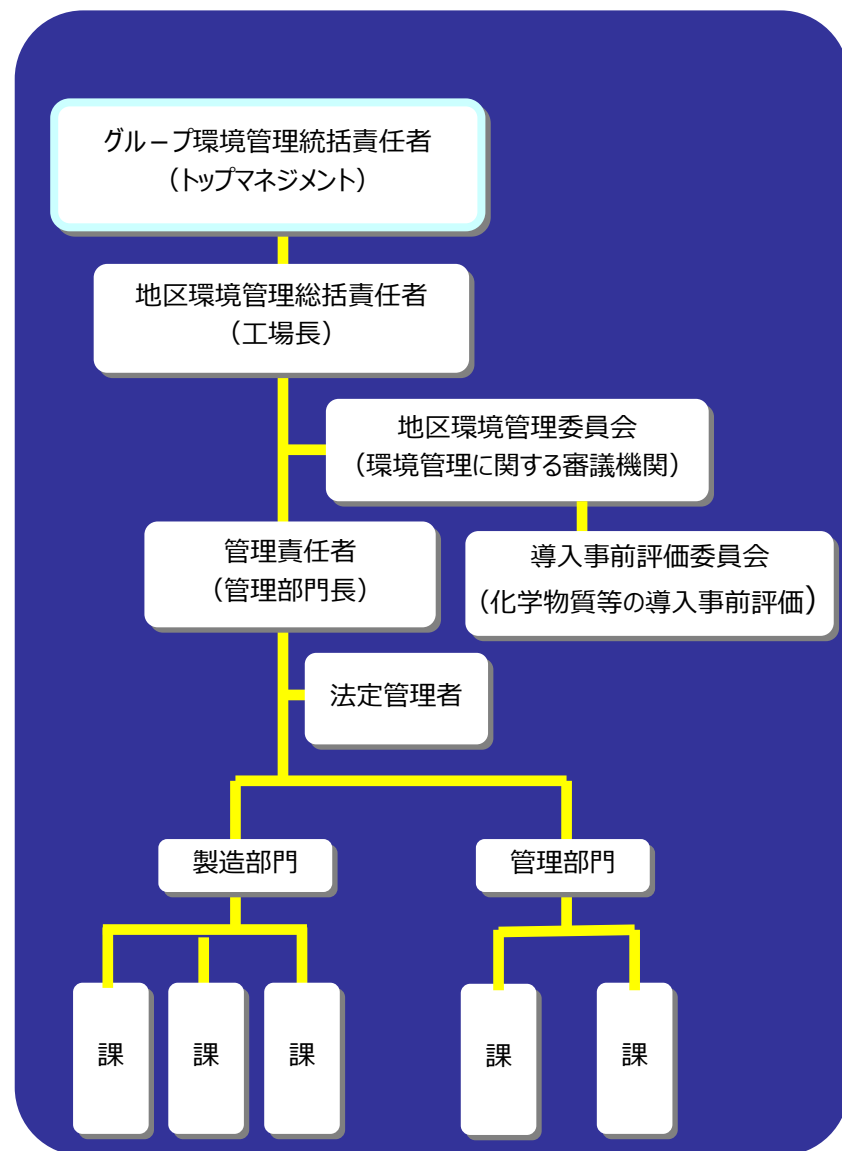
環境理念

私たちは、良き企業市民として企業の社会的責任を認識し、地球環境保全と企業活動との持続的調和を図り、人と地球の未来に対し積極的貢献を果たします。

行動指針

1. 電子デバイス事業、コンピュータ周辺機器の開発・製造、ソフトウェア開発、OA・電子部品の販売など総合エレクトロニクス企業として、すべての段階に環境保全思想を導入し、環境負荷低減に配慮した製品及びサービスを提供します。
2. 省資源、省エネルギー、汚染の予防の改善活動及び地球環境を保全するために、環境負荷低減と地球の再生能力の維持・向上に取り組めます。
3. 国、自治体の環境規制及びその他の要求事項を順守し、さらに自主管理基準を制定し環境管理レベルの向上を行います。
4. 環境目標を定め、その実現を図り、環境パフォーマンスを向上させるために、環境マネジメントシステムを定期的に見直し、継続的な改善を行います。
5. 当社で働く又は当社のために働くすべての人に環境教育を行い、環境意識の向上を図るとともに環境方針は社外の要求に応じ開示します。

【環境管理体制】



【ISO14001の認証】

当工場は、環境省でも環境政策のひとつとして紹介されている国際規格ISO14001のグループ認証を取得しています。

この規格の最新版である2015年版の要求事項については、2017年7月に、第三者機関の移行審査/更新審査を受査し、その認証登録を受理されています。

当工場の適用範囲

1. 組織

- ・内藤電誠工業株式会社 デバイスカンパニー 佐渡工場

2. 所在地

- ・佐渡工場【羽茂】 新潟県佐渡市羽茂本郷1939番地
- ・佐渡工場【真野】 新潟県佐渡市吉岡1688番地

3. 活動範囲

- ・半導体集積回路の製造

4. 組織機能

- ・資材購入、製造、製品輸送(外部委託)、協力会社

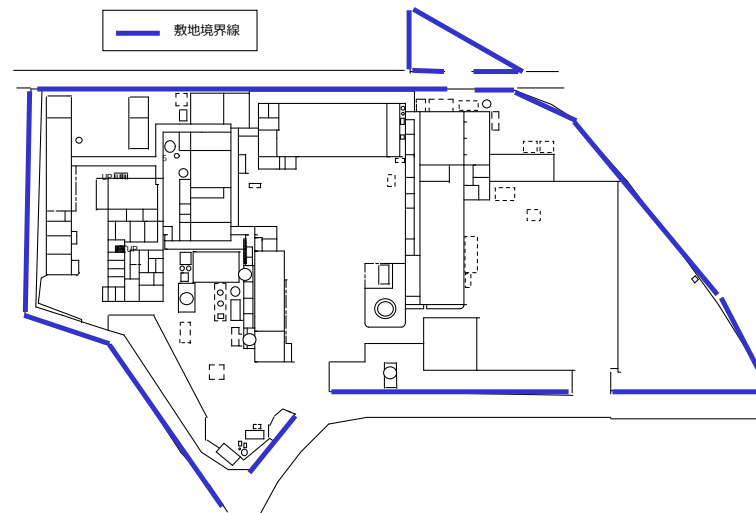
5. 適用範囲

- ・佐渡工場社員および当地区の環境に影響を及ぼす人
(当敷地境界内で作業を行う供給者、請負者、協力会社、派遣会社)

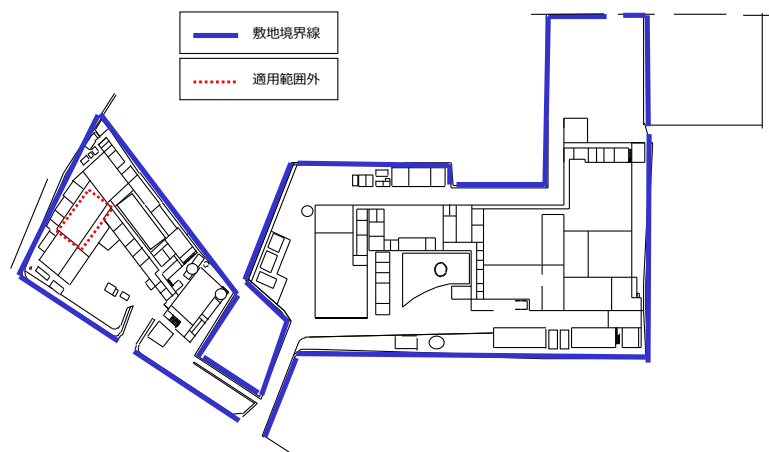
6. システムの利用と運用

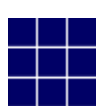
- ・エネルギーの利用(電気、燃料、ガス)、部品・材料の利用、
廃棄物の管理、敷地内の排水・排気

佐渡工場【羽茂】敷地境界配置図



佐渡工場【真野】敷地境界配置図





2022年度 環境目標実績と2023年度環境目標

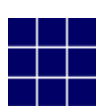
■「CO2排出量の削減：原単位」目標（前年度比・・・99%以下）を設定し活動しました。

当工場の原単位は『原油換算絶対値』÷『生産数量』としております。

2022年度は生産数の増加によりCO2排出量の絶対値目標は達成できませんでしたが、原単位では目標達成しています。

省エネ活動として、付帯設備リニューアルによる電力消費の効率化に取り組みました。

項目	2023年度		評価	2024年度
	目標	実績		目標
本来業務部門計画	5部門：10項目 計画比100%	95% ※1部門1項目で目標未達	×	5部門：10項目 計画比100%
CO2排出量の削減	原単位：前年度比 99%以下	110.9%	×	原単位： 前年度比・・・99%以下
環境管理活動計画 （年間）	117件	117件	○	117件
地域社会貢献活動 計画	98人	98人	○	87人
コンプライアンスの 遵守	有資格者の選任 19件 法的な報告等 9件 法定点検実施 25件	有資格者の選任 19件 法的な報告等 9件 法定点検実施 25件	○	有資格者の選任 19件 法的な報告等 9件 法定点検実施 22件



事業活動と環境負荷

■ 当工場が製品を製造する際には、「電力」「燃料」「化学物質」「水」などのエネルギーや資源を使用し、「排水」「排ガス」「廃棄物」を排出するため、環境負荷および環境影響を与えるリスクがあります。

当工場は、生産から物流にいたるインプットとアウトプットを把握し、これらの計画的な削減をおこない、その負荷と影響の低減をおこなっています。

■ エネルギー

電力	4,258 Mwh
A重油	228 k ℓ
灯油	0 ℓ
軽油	0 ℓ
ガソリン	1,080 ℓ
LPG	10 k g



イン
プット

■ 化学物質

2,056 k g

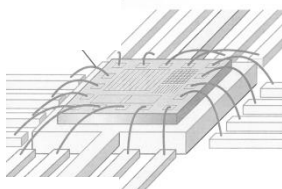


■ 用水

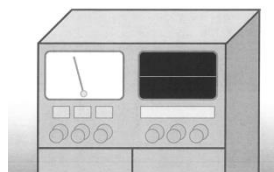
18.4 k m³



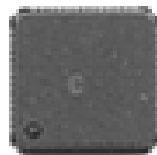
組立



検査



製品



輸送



■ CO₂

2,651 k ℓ



アウト
プット

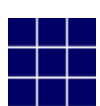
■ 排水 18.4 k m³ (下水 5.6 k m³)



■ 廃棄物

9.2 t





環境マネジメントと環境会計

【環境マネジメントシステムの構築】

当工場は、グループが定める環境マニュアルにもとづき、環境マネジメントシステムを構築し、活動をおこなっています。

この環境マネジメントシステムおよび環境パフォーマンスの継続的改善の監視として、内部監査を1回/年おこなっており、2023年度は改善の機会3件を抽出し改善をしています。

この監査においては、グループ監査員を含む認定された監査員が任命され、公平・公正な監査を目指しています。

また、今後とも継続的に厳しさが予測される法規制に対しては、グループ推進事務局をセンターとした情報共有をシステム化し、工場のコンプライアンスを確認しています。

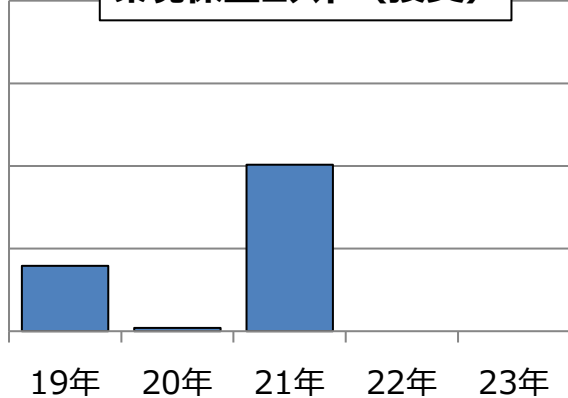
【環境会計】（23年度）

環境投資：投資としてはありません。

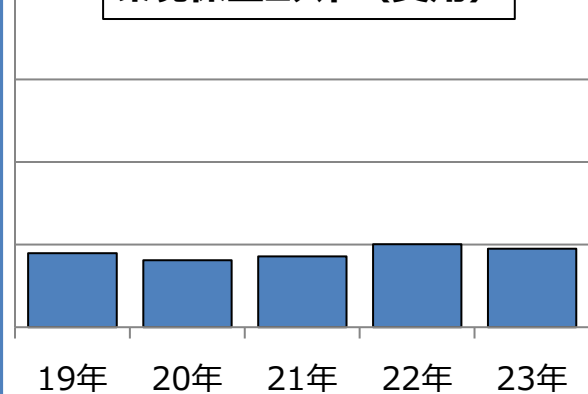
保全費用：公害防止、廃棄物の再資源化に費用を使用し、排水の環境基準の順守、リサイクル100%を継続しています。

経済効果：切断屑のリサイクルと本来業務の改善により効果が出ています。

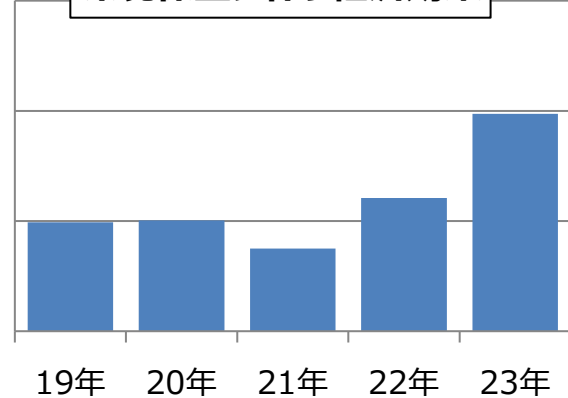
環境保全コスト（投資）

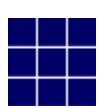


環境保全コスト（費用）



環境保全に伴う経済効果





省エネルギー活動

■活動の概要

当工場は、省エネルギー法におけるエネルギー原単位の削減目標の達成に向け、活動を継続的に推進しています。
グループ内における連鎖化事業者として、前年度比率で、年率99%以下を削減目標としています。

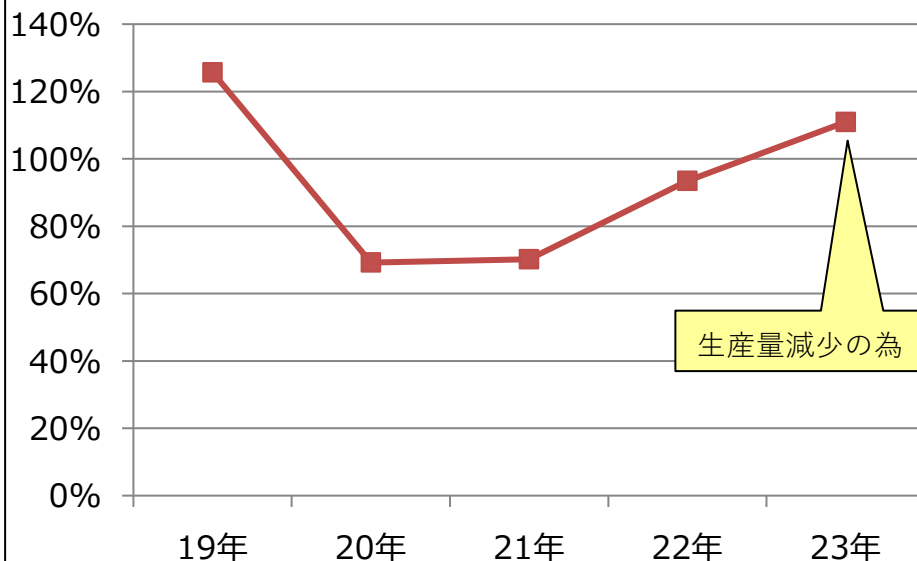
【2023年度の結果】

原単位 B M 比（前年実績） 110.9%であり目標未達となりました。

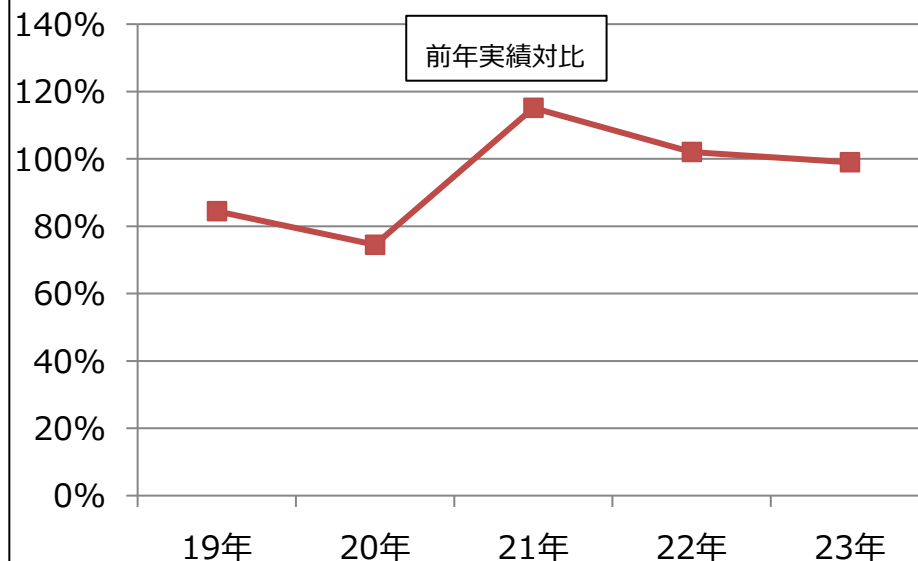
絶対値としては B M 比99.9%と微減、省エネルギー活動を進めているが生産量が前年比90%と減少したことで原単位が未達。

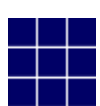
【2023年度の主な施策】・・稼働日・設備稼働台数の適正化を実施

CO₂原単位推移



エネルギー使用量（絶対値）推移





化学物質・廃棄物の管理

■化学物質管理活動の概要

当工場は、お客様が要求するグリーン調達（ガイドライン、基準書等）や各種法規制情報（労働安全衛生法、化学物質排出量把握管理促進法等）にもとづき、社内で使用する化学物質の管理をおこない、その改善および削減に努めています。

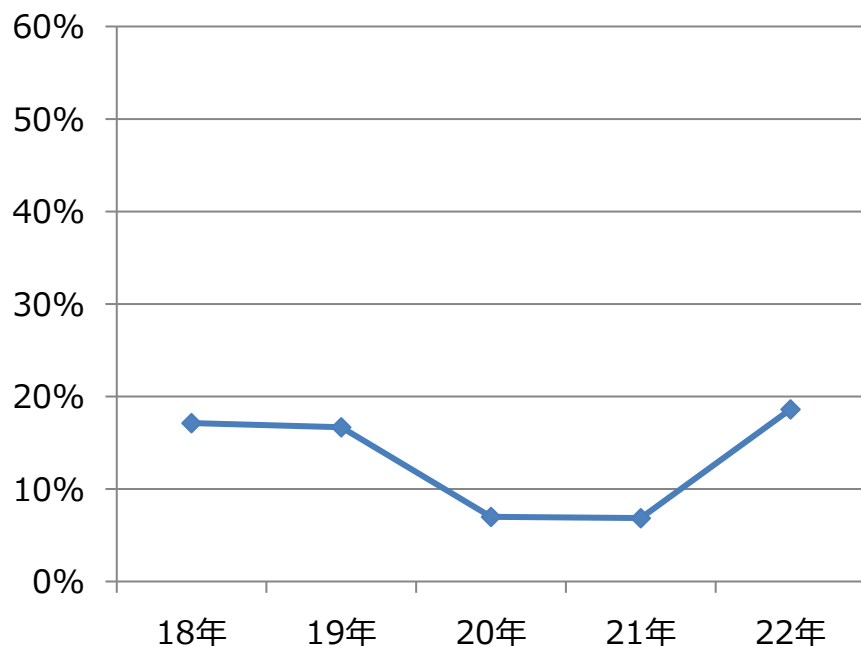
■廃棄物管理活動の概要

2023年度は、廃棄物の排出量は9.2トンでした。

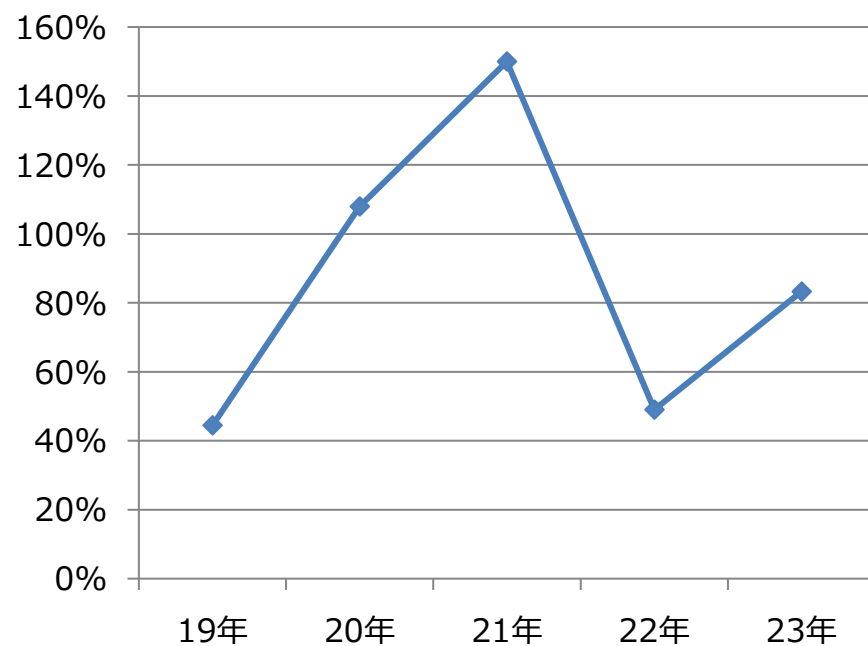
当工場は、産業廃棄物のリサイクルならびにその排出の抑制に努めており、リサイクルは100%を行っています。

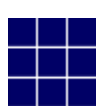
また、産業廃棄物の処理委託先を定期的に訪問することにより、委託した産業廃棄物が適正に処理されているかどうかを確認しています。

化学物質使用推移



廃棄物推移 前年度対比





コンプライアンス

■ 環境関連法規制への対応

当工場で製造する製品は、多くの商品に搭載され、国内はもとより、世界各国でも使用されています。

製造する製品ならびに工場のコンプライアンスにかかわる環境関連法規制を遵守するため、法規制情報を収集し、対応をおこなっています。

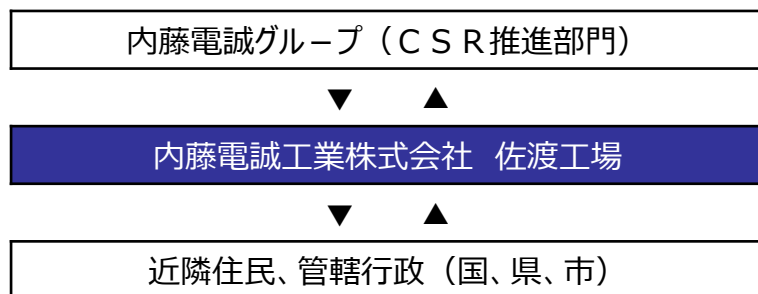
■ グリーン調達の推進

当工場では、お客様が満足する製品を提供するために、当工場で製造する製品に使用する原材料について、環境負荷が少なく有害物質を含まない原材料を取扱うお取引先様から、優先的に購入するグリーン調達をおこなっています。

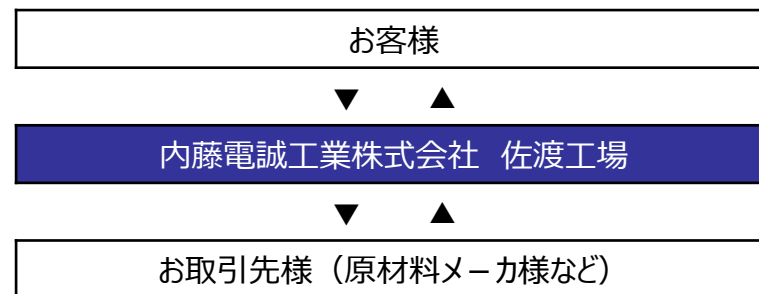
当工場の要求事項は、お客様から提示されるグリーン調達に関する基準書等にもとづく「グリーン調達ガイドライン」として、お取引先様に開示するとともに、お取引先様の環境に関する取り組みを調査させていただいています。

また、RoHS指令やREACH規則では、含有禁止物質の閾値が規定されており、製品を構成する部品・部材について、お取引様からの禁止物質の非含有報告書や分析データなどをいただくともに、当工場においても分析をおこなっています。

法規制情報の流れ



ガイドライン、製品含有物質情報や分析データの流れ



ボランティアと啓発・啓蒙

毎年、環境月間の活動として社員意識啓発の一貫として環境教育を行っています。

■ 環境教育概要

活動期間	活動時間	場所	教育内容	受講者数
6月17日～28日 (各部門で設定)	1時間程度	各部門で設定	(1)環境一般教育 (2)省エネに対するグループ討議	81名

■ 活動内容詳細

環境教育テキストを用い、各部門単位で教育を実施
また、新しい試みとしてCO₂絶対値削減に向けて、個人単位でおこなえる省エネ対策
をテーマにグループ討議を実施した

教育テキスト

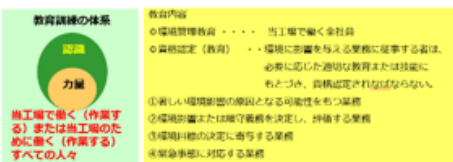
■ 環境教育資料

2024年度 環境一般教育テキスト

1. 教育訓練

①教育の目的
環境管理責任に関する意識を定め、必要な力量を明確にし、
その計画的な実施および有効性の評価することにより、
全社員の力量及び意識の維持向上を図る。

②適用範囲
当工場において、環境に影響を与える活動に従事する全ての社員に
ついでに教育訓練に関する事項は4章にもとづきおこなう。



4. 環境側面と環境影響

【概念図】



グループ討議

■ 省エネに向けての取組みについて（グループ討議）

2023年度は昨年と同レベルの生産数が見込まれています。
その中で、目標としている「CO₂排出量 前年度対比マイナス1%」の達成に向けて、個人
単位での省エネ活動が必要となります。

そこで、個人で実施できる具体的な省エネに向けた取り組みについて、グループで討議して
意見を出し合ってください。

- 例)
- ・お昼休み時は事務所の照明をOFFにする
 - ・離席時はこまめにモニターの電源をOFFにする
 - ・無駄にコピーをしない
 - ・作業・業務の無駄を排除して効率よく仕事できるようにする
 - ・作業ミスが発生しないように決められたことを確実に実施する
 - ・おかしいと感じたことがあればすぐに職務に連絡して不良・故障を発生させない
 - ・社有車の運転時はエコドライブを意識する

意見については各課単位で取りまとめ、事務局まで報告してください。

内藤電誠工業株式会社

